

令和 3 年度

事 業 報 告 書



日本赤十字社 山口県支部
Japanese Red Cross Society

Mission statement

日本赤十字社の使命

わたしたちは、苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、いかなる状況下でも、人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、人道の実現のために、利己心と闘い、無関心に陥ることなく、人の痛みや苦しみに目を向け、常に想像力をもって行動します。

目 次

はじめに	1
1 災害救護体制の充実・強化	2
2 健康・安全のための知識・技術の普及	11
3 青少年赤十字活動	13
4 國際活動	16
5 赤十字奉仕団による活動	18
6 赤十字思想の普及	22
7 赤十字活動資金の確保	26
8 医療事業	29
9 看護師の養成	34
10 血液事業	35
11 評議員会及び監査	41

はじめに

平素から、日本赤十字社山口県支部・施設の活動に、格別のご支援とご協力をいたしております、厚くお礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が確認され既に2年を超えたが、いまだ懸命にコロナとの戦いを続いている状況にあります。現在も全国の赤十字病院では、極めて厳しい環境の下で、人々の命を守り、地域の医療を支えるため、医療スタッフたちが日々奮闘しています。

また、頻発化、激甚化する大雨により、昨年も、静岡県熱海市での大規模土石流の発生や北部九州での河川の氾濫など、各地で甚大な被害が生じました。日本赤十字社は、その都度、救護班等の派遣や物資を提供したほか、全国で義援金を募集するなど、被災地支援を行いました。

さらに、本年2月、ロシア軍のウクライナ侵攻により、ウクライナの人々は突如として激しい紛争に巻き込まれてしまいました。日本赤十字社は、ウクライナ人道危機救援金の募集をはじめ、資金提供や職員派遣など、国際赤十字と連携した人道支援を行っているところです。

こうした有事における全社的な取組に加え、山口県支部・施設におきましては、令和3年度も、職員、奉仕団員等赤十字関係者が一体となって、人間のいのちと健康、尊厳を守るための赤十字の事業・活動に取り組んでまいりました。

まず、支部事業については、災害救護体制の充実・強化をはじめ、救急法等の講習普及、青少年赤十字や奉仕団活動など、コロナ禍においても感染防止対策を講じながら各種事業の推進に努めました。

これら人道支援活動の財源となる「活動資金」についても、地区・分区や奉仕団等関係者の皆様のご協力により、多くの個人、法人の皆様からご支援をいただき、目標額を達成することができました。

また、国内外の被災者のため、多くの義援金・救援金が寄せられたことに、心より感謝申し上げます。

次に、医療事業については、新型コロナウイルス対応に全力で取り組むとともに、医療機能の分化・連携、地域包括ケアシステムの構築など医療・介護の制度改革に適切に対応しつつ、県民ニーズに応じた医療提供体制の充実・強化に努めました。

また、血液事業については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響があったものの、ほぼ前年並みの献血者を確保し、中四国地域での広域需給管理体制のもと、血液製剤を安定的に供給することができました。

詳細については、当報告書にまとめましたので、ご高覧ください。お気づきの点など、ご意見をいただければ幸いです。

「救いたい」その思いを託されている私たちは、今後とも、赤十字ならではの人道支援を未来に向かって継続し、県民の皆様の信頼と期待に応えていきたいと考えていますので、一層のご支援、ご協力をよろしくお願ひ申し上げます。

日本赤十字社山口県支部

1 災害救護体制の充実・強化

日本赤十字社は、災害対策基本法により「指定公共機関」に規定される組織です。災害救助法において、国及び都道府県等の救助活動に協力する義務が定められており、災害救護は、日本赤十字社法に明示された赤十字の事業の中で最も重要なものです。

山口県支部では、災害時の活動に備えて、災害医療コーディネートチームや常備救護班を配備し、各施設の職員を救護要員として登録し、訓練や研修を行うとともに、必要な資器材の整備・更新を行い体制の強化を図っています。

(1) DMAT等職員の派遣

県内の新型コロナウイルス感染拡大に伴い、山口県からの要請により、宿泊療養施設での対応やクラスター発生時の情報整理等の業務支援を行うため、赤十字病院の職員を派遣しました。

派遣期間	派遣員	派遣先
令和3年4月20日～21日	看護師1人	宿泊療養施設
令和3年5月16日～30日	医師1人、業務調整員3人	宿泊療養施設
令和4年1月6日～19日	業務調整員3人	岩国保健所

(2) 救護班・DMATの編成、救護要員の養成・訓練・研修の実施

① 救護班と救護要員の登録・養成

災害発生後、直ちに医療救護活動ができるよう、山口及び小野田両赤十字病院の医師や看護師等で編成した常備救護班8個班を配備するとともに、各施設に救護要員を登録し、救護体制の維持に努めました。

【施設別救護班編成状況および救護要員の職種別登録者数（令和3年6月1日時点）】

区分 施設	常備 編成 数 救護 班	本部 災害 要員 対策	救護班要員					血液 供給 要員	本部 支 部 災 害 要 員 対 策	合計
			医 師	看 護 師 長	看 護 师	主 事	薬 剤 师			
支 部	—	9人	—	—	—	—	—	—	—	9人
山口赤十字病院	6個班	6人	12人	12人	22人	24人	2人	—	6人	84人
小野田赤十字病院	2個班	3人	2人	4人	8人	15人	2人	—	—	34人
血液センター	—	7人	—	—	—	16人	—	9人	4人	36人
合 計	8個班	25人	14人	16人	30人	55人	4人	9人	10人	163人

【救護班1個班の編成基準】※必要に応じて、薬剤師や助産師等を加えて編成します。

医師（班長）	看護師長	看護師	主事（事務）	計
1人	1人	2人	2人	6人

② 日赤災害医療コーディネートチームの編成

大規模災害時の医療ニーズの把握や本社・支部の災害対策本部に対する助言、被災地自治体保健医療調整本部との連携・調整を図るための災害医療コーディネートチームを3チーム編成しています。災害医療コーディネーターは医師、コーディネートスタッフは看護師、薬剤師、事務職員等から選任し、効果的・効率的な活動に備えました。

施設名	コーディネーター	コーディネートスタッフ	チーム数
山口赤十字病院	3人	6人	2チーム
小野田赤十字病院	1人	3人	1チーム

③ DMAT（災害派遣医療チーム）の編成

災害急性期（概ね発災後48時間以内）に活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた医療チームを山口赤十字病院に2チーム編成し、県内外で発生する大規模災害に備えました。

施設名	チーム数	医師	看護師	業務調整員	合計
山口赤十字病院	2チーム	2人	6人	4人	12人

④ 救護要員の訓練・研修

非常災害時の救護活動を迅速かつ的確に実施するための訓練や研修会を通じて救護知識の習得と技術の向上を図りました。

新型コロナウイルスの感染状況により、各種研修では従来の参集形式に代えてオンライン上で知識の習得や情報共有、グループワークや協議を行うなど救護員の資質向上に務めました。

昨年度は中止となった中国・四国ブロックの合同災害救護訓練は、感染防止対策を講じて参集形式により香川県で実施しました。大型台風による被害を想定し、他団体との合同訓練として、日赤は被災地として想定された地域に設置された救護所や避難所等における巡回診療等の活動を行いました。また、今回の訓練では、オンライン会議システムを活用し、災害対策本部との双方向の情報伝達を行うなど、新たな通信方法を試みました。

【災害救護訓練】

訓練名	開催月日	主 催	会 場	参加者数
山口県総合防災訓練	5月23日	訓練実行委員会	美祢市別府公民館	8人
救護員としての赤十字看護師研修総合演習	10月12日	日本赤十字社 山口県支部	日本赤十字社 山口県支部	15人
中国・四国ブロック各県支部合同災害救護訓練	11月12日～13日	日本赤十字社 香川県支部	日本赤十字社 香川県支部ほか	10人
山口県支部災害救護訓練	3月上旬	日本赤十字社 山口県支部	中止	—

【災害救護研修】

訓練名	開催月日	主催	会場	参加者数
救護員としての赤十字看護師研修	R 2. 2月～R 3. 11月	山口赤十字病院	日本赤十字社 山口県支部	15人
こころのケア要員養成研修会	9月4日	日本赤十字社 山口県支部	オンライン開催	9人
こころのケア指導者養成研修会	2月11日～13日	日本赤十字社 本社	オンライン開催	2人
中国・四国ブロック災害対策本部要員研修会	2月14日～15日	日本赤十字社 岡山県支部	中止	4人
日赤災害医療コーディネートフォローアップ研修会	3月13日	日本赤十字社 本社	オンライン開催	14人



山口県総合防災訓練の様子



看護師研修での搬送訓練

(3) 救護装備の整備

① 業務用無線基地局の更新

国が進めている新スプリアス規格に対応するために、平成30年度から業務用無線局の更新を計画的に進めてきましたが、令和3年度に400MHz帯無線基地局を更新し、全ての無線局の更新が完了しました。

年度	機種	H30	R 1	R 2	R 3 (予定)	合計
150MHz	基地局	－	－	1台	－	1台
	移動局	8台	7台	－	－	15台
400MHz	基地局	－	－	－	1台	1台
	移動局	3台	8台	2台	－	13台

② 災害救護装備の更新及び整備

【保有救護用資・器材】

品 目	支 部	病 院	血 液 センター	合 計
医療セット	2 セット	2 セット	—	4 セット
パイプテント	8 張	—	—	8 張
ド ラ ッ シュ テ ン ト	2 張	—	—	2 張
エアテント	2 張	1 張	—	3 張
担架	20 台	3 台	—	23 台
折畳寝台	33 台	9 台	—	42 台
発電機	2 台	—	—	2 台
蓄電池	2 台	—	—	2 台
投光器	1 台	—	—	1 台
折畳テーブル	4 台	—	—	4 台
折畳ホワイトボード	2 台	—	—	2 台
個人線量計	28 個	—	—	28 個
サーベイメーター	1 個	—	—	1 個
衛星電話	5 台	2 台	2 台	9 台
無線（150MHz）	18 台	6 台	5 台	29 台
無線（400MHz）	12 台	4 台	—	16 台

【保有救護用車両】

車両種別	山口県支部	山口赤十字病院	小野田赤十字病院	合計
救急車	1 台	1 台	1 台	3 台
災害救援車	7 台	1 台	—	8 台
合計	8 台	2 台	1 台	11 台

③ AEDの整備

人間の苦痛を予防・軽減するという「赤十字の使命」を達成することを目的に、各地区・分区の要請等により公共施設等へAEDの更新整備を行いました。

【AEDの整備台数】 (単位：台)

年度	H19～25	H26	H27	H28	H29	H30	R 1	R 2	R3	合計
新規	114	11	6	7	7	1	0	0	0	146
更新	—	27	22	18	14	12	2	13	20	128

(4) 救援物資の備蓄・配布

赤十字では、災害の発生に備えて救援物資を備蓄しており、本年度も自然災害や火災等の被災者へ配布しました。

【備蓄数】（令和4年3月末現在）

	毛 布	緊急セット	安眠セット	バスタオル	タオルケット
地 区 分 区	4,896 枚	548 セット	549 セット	1,450 枚	0 枚
小野田赤十字病院	400 枚	738 セット	36 セット	0 枚	500 枚
山 口 県 支 部	960 枚	378 セット	108 セット	500 枚	800 枚
合 計	6,256 枚	1,664 セット	7,693 セット	1,950 枚	1,300 枚

【配布数】

	毛 布	緊急セット	安眠セット	バスタオル
配 布 数	59 枚	38 セット	21 セット	54 枚



毛布



緊急セット



安眠セット



バスタオル

(5) 臨時救護

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、予定されていた多くの行事が中止となりましたが、感染防止対策を講じた上で開催された公的な式典、大会等に救護員を派遣し、参加される人々の万が一に備えました。

【実施内訳】

主催者等	回数 のべ日	主な行事名	主な派遣場所	のべ 派遣人数
独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構	1回／1日	アビリンピックやまぐち	山口市	1人
公益財団法人山口県体育協会	1回／2日	やまぐち未来 アスリートチャレンジ	山口市	2人
山口青年会議所	1回／1日	青空天国いこいの広場	山口市	2人
山口青年会議所	1回／1日	FAMILY FESTIVAALI ～ GO OUT YAMAGUCHI ～	山口市	1人
NHK山口放送局	2回／4日	学校音楽コンクール ほか	山口市	4人
山口県陸上協会	2回／2日	全日本実業団ハーフマラソン ほか	山口市ほか	3名
下関市	1回／1日	ツール・ド・しものせき	下関市	5名

【イベント種別実施内訳】

イベント種別	派遣回数	のべ派遣日数	のべ派遣人数
大会・式典	3回	5日	5人
スポーツ大会等	4回	5日	10人
祭り等	2回	2日	3人
宿泊行事	0回	0日	0人
合計	9回	12日	18人

(6) 死亡者弔慰金

県内で災害等により死亡された方のご遺族に対して弔慰金を交付しました。

【死亡者弔慰金】

件 数	交 付 金 額
9件	180,000 円

(7) 義援金の募集

災害等の発生に際し、日本赤十字社では被災者を支援するために、義援金を募集し、全額を被災地の義援金配分委員会へ送金しました。

義 援 金 区 分	件 数	金 額
平成30年7月豪雨災害義援金	36件	417,169 円
令和2年7月豪雨災害義援金	60件	489,473 円
令和3年2月福島県沖地震災害義援金	28件	156,695 円
令和3年島根県松江市大規模火災義援金	16件	166,608 円
令和3年7月大雨災害義援金	57件	562,188 円
令和3年7月大雨災害義援金（静岡県指定）	1件	250,000 円
令和3年7月大雨災害義援金（島根県指定）	1件	220 円
令和3年台風第9号等大雨災害義援金	22件	262,007 円
令和3年8月大雨災害義援金	49件	804,365 円
令和3年8月大雨災害義援金（島根県指定）	1件	60 円
令和3年8月大雨災害義援金（広島県指定）	2件	1,652 円
令和3年8月大雨災害義援金（長崎県指定）	2件	2,119 円
令和3年長野県茅野市土石流災害義援金	20件	141,754 円
令和4年3月福島県沖地震災害義援金	1件	15,653 円
合 計	296件	3,269,963 円

【令和4年3月末までの累計受付金額】

義援金区分	件数	金額
平成30年7月豪雨災害義援金	478件	70,411,372円
令和2年7月豪雨災害義援金（県指定含む）	219件	18,587,786円
令和3年2月福島県沖地震災害義援金	43件	545,752円
令和3年島根県松江市大規模火災義援金	16件	166,608円
令和3年7月大雨災害義援金（県指定含む）	59件	812,408円
令和3年台風第9号等大雨災害義援金	22件	262,007円
令和3年8月大雨災害義援金（県指定含む）	54件	808,196円
令和3年長野県茅野市土石流災害義援金	20件	141,754円
令和4年3月福島県沖地震災害義援金	1件	15,653円

（8）防災・減災の普及・啓発

広く県民を対象とした地域の防災力と減災意識向上を目的とする講習会等を実施しました。新型コロナウイルス感染症の影響により、前年度から依頼が減少していますが、感染防止対策を徹底し、防災講話を中心とした伝達講習を中心として下記のとおり実施しました。

【開催団体別】

開催団体種別	回数	受講者数
町内会・自治会組織	3回	101人
赤十字関係	1回	28人
学校関係	1回	90人
企業・法人	0回	0人
その他団体	1回	13人
合計	6回	232人



下関赤十字奉仕団の防災研修会の様子

① 地域における防災講習会

地域の民生委員や母子保健推進委員等を対象に、災害救護事業の紹介、災害の備えについての講話などを内容とする講習会を実施しました。

また、地域の民生委員・児童委員協議会の研修会の内容の一部として、山口県支部の災害救護倉庫見学と併せた防災講習を実施しました。

② 教育現場における防災教育プログラム

下関地方気象台と日本気象予報士会西部支部との3者で構成する『いのちを守る防災教育を推進する会』として、自らのいのちを守る力を身につけ、防災意識向上を図るグループワークである「大雨防災ワークショップ」を県の教職員研修等で実施しました。

③ 赤十字防災セミナー

市民の防災・減災に関する知識・意識・技術の普及向上、自助・共助の力の向上を目指して平成29年度から全国展開しています。今年度は、コロナ禍でも実施できるカリキュラムとして個人ワークを導入されるなど、指導者用のマニュアルが改訂され、主任指導者への伝達が行われました。

(9) 東日本大震災オンライン語り部 LIVE 2021

日赤宮城県支部の主催で、全国のJRC加盟校を対象に、東日本大震災被災者の体験談がオンラインで配信されましたが、当支部からは、9校が参加し、過去の災害を知ることで課題に「気づき」、未来の災害への対応について「考え」、そのための備えとして何を「実行する」べきか学びました。

【語り部 LIVE 参加校】

参加校	配信日	人数
山口県立徳山商工高等学校	①12月22日、②1月28日	①4、②7
山口県立豊浦高等学校	12月22日	6
山口市立川西中学校	1月19日	57
山口県立萩高等学校	1月28日	20
山口県立華陵高等学校	1月28日	5
周南市立福川小学校	①2月1日、②2日	①61、②60
下松市立末武中学校	2月3日	300
光市立室積小学校	2月15日	38
周南市立鹿野中学校	2月8日	17
合 計		575人



川西中学校で語り部 LIVE に参加する生徒たち

(10) 「災害時の非常炊出し支援を考える研修」の実施

アレルギーを持つ方が、災害時に安心して炊き出し支援を利用できる環境づくりを目的に、気象予報士で構成する『空みずきの会』とアレルギーの子どもを抱える家族で構成する『アレルギーっ子の会ぽれぼれ』と共同で研修会を実施しました。

この研修は、内容ごとに3回に分けて開催し、アレルギーの子どもを持つ家族をはじめ、学校給食調理員、行政職員や市民団体のメンバー等、延べ約140人が受講されました。日赤からは、災害時に実際に非常炊き出しを行っている地域奉仕団と学生奉仕団のメンバーが参加しました。

1回目の研修では、専門医の講話とアレルギー当事者等の体験談を聞いて、アレルギーに対する理解を深めていただき、2回目で、アレルギーに配慮したメニューと調理工程を考えるグループワークを行いました。そして、3回目に、前回までの内容を踏まえて実際に炊き出し訓練を実施しました。

研修終了後は、今後の非常炊き出し時に生かせるように、今回の研修内容をまとめたマニュアル冊子「やさしい避難所～食物アレルギーに配慮した炊き出し編～」を作成しました。

【研修日程等】

研修内容	実施時期	会場	参加者数
①食物アレルギーについて学ぶ	7月11日	ゆ~あいプラザ 山口県社会福祉会館	58名
②アレルギーに配慮した炊出し実施のためのグループワーク	8月1日	ゆ~あいプラザ 山口県社会福祉会館	39名
③食物アレルギーに配慮した非常炊出し訓練	10月3日	山口ふるさと伝承 総合センター	42人



作成したマニュアル冊子



アレルギーに配慮した非常炊き出し訓練

2 健康・安全のための知識・技術の普及

日本赤十字社では、「人間の苦痛を予防・軽減し、生命の尊厳を確保する」という赤十字の理念のもと、具体的な知識や技術として一般の人々に広めることを目的として、『いのちを守る赤十字講習会』を開催しました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症予防対策の徹底と講習内容の限定、そして、講習受講者の分散を目的とした夜間講習の実施により令和2年度より講習受講者を大幅に増加させることができました。

今後は、更なる感染症対策として、WEBによるオンライン講習を実施できるよう準備を進めています。

なお、救急法基礎講習以外の養成講習会等については、現在も日赤本社において、カリキュラムの見直しを含め、再開に向けた検討を行っています。

《講習の種類と内容》

講習名	講習内容
救急法	基礎講習…心肺蘇生、AEDの使い方、気道異物除去 等 救急員養成講習…急病・けがの手当（止血・包帯・固定）、搬送 等
水上安全法	泳ぎの基本と自己保全、事故者の救助および応急手当、海・河川・湖沼での事故防止等
健康生活支援講習	誰もが迎える高齢期を、健やかに生きるために必要な健康増進の知識や、高齢者の支援・自立に役立つ介護技術等
幼児安全法	こどもに起こりやすい事故の予防と手当、こどもの病気と看病、こどもに対する心肺蘇生及びA E Dの使い方等
家庭あんま術	病気の予防や疲労回復などの健康増進を目的とした、家庭でできるあんま術の知識と技術



救急法



水上安全法



健康生活支援講習



幼児安全法

(1) 各種講習の実施

令和3年度は、受講者数9,000人を計画し、感染対策を講じて講習普及を進めましたが、コロナ感染拡大期における講習中止や受講キャンセル等の影響により、受講者数は、7,916人となりました。

区分	実施時期	実施回数	受講者数
救急法基礎講習	通年	10回	162人
救急法基礎（夜間）講習	12月	1回	10人
救急法短期間講習	通年	230回	7,458人
水上安全法短期間講習	7月	1回	40人
健康生活支援短時間講習	通年	1回	16人
幼児安全法講短期間講習	通年	9回	210人
家庭あんま術講習	通年	1回	20人
合 計		253回	7,916人

（参考）令和2年度総受講者数：4,046人

(2) 講習普及指導員の育成

各講習を普及推進していくために指導員に対して研修等を実施して育成を行っており、本年度は支部職員3名を指導員として養成しました。

【講習別指導員内訳】

区分	人 数
救急法指導員	174人
水上安全法指導員Ⅰ	5人
水上安全法指導員Ⅱ	21人
健康生活支援講習指導員	32人
幼児安全法指導員	73人

【各講習指導員の育成】

各種指導員研修会は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止しました。

3 青少年赤十字活動

次世代を担う青少年が、赤十字精神に基づいて、世界の平和と人類の福祉に貢献できるよう、加盟校の拡大を進めるとともに、新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮し、WEBや書面開催を活用し、指導体制の充実やメンバーの増強と資質の向上に努めました。

(1) 加盟園・校の拡大と活動の充実

①加盟の状況（令和4年3月末現在）

区分	令和2年度	令和3年度	増減	(参考) 令和3年度 JRC加盟率
幼稚園	13園	15園	+ 2園	
保育園	2園	2園	—	
小学校	74校	86校	+ 12校	31.0%
中学校	30校	31校	+ 1校	21.0%
高等学校	35校	36校	+ 1校	52.0%
特別支援学校	1校	1校	—	8.3%
全 体	155園・校	171園・校	+ 16校	33.9%

※加盟率は、山口県内の学校数（令和3年度山口県教職員録より）を分母として算出

② 活動助成

県下の加盟園・校が青少年赤十字の実践目標「健康・安全、奉仕、国際理解・親善」及び態度目標「気づき、考え、実行する」に基づく学校単位で行う地域活動・研修等に対して、開催経費の一部助成を行いました。

【令和3年度の助成状況】

区 分	助成件数	助 成 金 額
幼稚園・保育園	1 件	20,000 円
小 学 校	42 件	760,000 円
中 学 校	4 件	50,000 円
高 等 学 校	1 件	20,000 円
計	50 件	850,000 円

※活動内容は、宿泊学習等のリーダー研修や地域清掃・環境美化活動等の奉仕活動、地域での交流活動等となります。

※活動する児童・生徒数により、1園・校につき上限3万円までの金額

(2) 指導体制の充実

県教育委員会や加盟園・校の指導者で組織する指導者協議会の支援を得て、今後の活動充実と活性化を図るための協議・研修を行いました。

会議・研修名	実施時期	会 場	参加者数
山口県青少年赤十字高等学校指導者協議会校長会	6月	書面開催	—
山口県青少年赤十字幼保・小・中学校指導者協議会園長・校長会	6月	書面開催	—
青少年赤十字全国指導者協議会総会・研修会	6月29日	(WEB 開催)	2人
中国・四国ブロック青少年赤十字指導者協議会長並びに事務担当者会議	6月28日	(WEB 開催)	3人
青少年赤十字研究会	9月30日	(WEB 開催)	2人
山口県青少年赤十字指導者協議会	2月25日	(WEB 開催)	63人

(3) メンバーの増強と資質の向上

① リーダーシップ・トレーニング・センターの実施

例年、各学校や地域における青少年赤十字活動の中核となる児童・生徒のリーダー養成研修や、県を4地区に分け、その地区ごとに企画される高等学校メンバーの地区トレーニング・センターを実施していますが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、中止、又は書面やWEBによる開催となりました。

研修名	実施時期	会 場	参加者数
高等学校中部地区リーダーシップ・トレーニング・センター		(中止)	
高等学校東部地区リーダーシップ・トレーニング・センター		(中止)	
高等学校南部地区リーダーシップ・トレーニング・センター		(中止)	
高等学校西部地区リーダーシップ・トレーニング・センター		(書面開催)	
高等学校リーダーシップ・トレーニング・センター	8月7日 (WEB開催) 、12月18日 (参集)		
小学校リーダーシップ・トレーニング・センター		7月27日 (WEB開催)	
中学校リーダーシップ・トレーニング・センター		2月5日 (WEB開催)	
スタディー・プログラム		12月25日・26日 (WEB開催)	



小学校リーダーシップ・トレーニング・センターの様子



オンラインでスタディ・プログラムに参加する山口県鴻城高校の生徒たち

② 加盟園・校メンバーの活動

(ア) 幼稚園・保育園・小学校・中学校

県下各園・校において、募金活動、清掃活動、野外活動など、新型コロナウィルスの感染防止対策を講じて様々な活動を実施しました。

(イ) 高等学校

高等学校では、県下加盟校全体で組織する協議会を中心に活動の企画・協議が行われ、今年度は「みんなちがってみんないい」を全体テーマとし、それぞれの学校で活動を行いました。

【高等学校メンバーの活動】

活動内容	実施時期	会 場	対象・人数
世界赤十字デー県下一斎ボランタリー・サービス (清掃、環境美化、福祉施設訪問活動等)	通年	県下加盟高校校区等	高校生徒 ・指導者 15校 520人
山口県高等学校 青少年赤十字学習交流会		(中止)	
山口県高等学校 青少年赤十字協議会総会	9月11日	(WEB開催)	高校生徒 ・指導者 60人

③ 赤十字講習・プログラム活用の推進

未来を担う子どもたちに、防災講習や健康・安全のための講習会、専門職員による出前授業を行いました。

【講習会】（再掲※）

講習内容	回 数	人 数 (対象:児童・生徒、保護者、教職員等)
救急法	25回	628人
防災講習	1回	20人

※P 8. (8) 「防災減災の普及・啓発」およびP 12. (1) 「各種講習の実施」の再掲 (JRC加盟校分)

【出前授業】

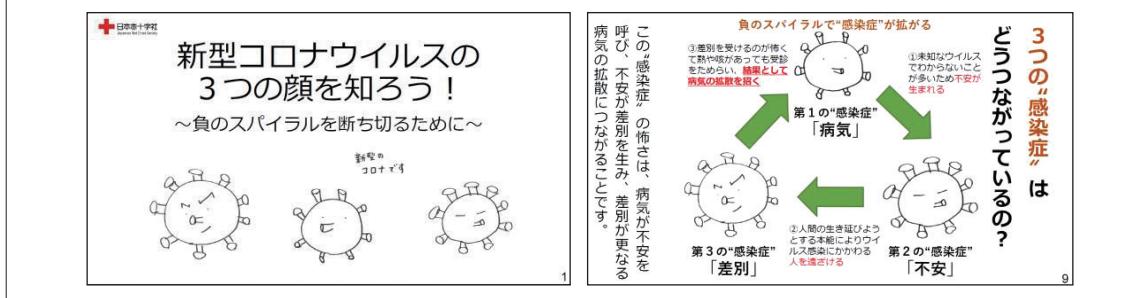
講習内容	回数	人数(対象:児童)
いのちの尊さについて	1回	39人
車椅子講習	1回	126人

(4) 新型コロナウイルスの感染予防と感染拡大防止の啓発

新型コロナウイルス感染症に関する正しい知識を身につけ、感染予防と感染拡大防止、さらには、差別や偏見を防ぐことを目的に、令和2年度から青少年赤十字向け教材を活用した啓発活動を行っています。令和3年度は、小・中学校6校に職員および賛助奉仕団員を派遣し、講演を行いました。

教材名	内 容
「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！～負のスパイラルを断ち切るために～」	新型コロナウイルス感染症には3つの顔があり、第1は「病気」そのもの、第2は感染への「不安」と「恐れ」、そして第3が「嫌悪・偏見・差別」であり、これらが負のスパイラルとなって病気の拡散につながるというもの。

【教材のイメージ】



(5) 東日本大震災オンライン語り部 LIVE 2021（再掲）

日赤宮城県支部主催の「オンライン語り部 LIVE」に、県内から9校が参加し、過去の災害を通じて、防災・減災の必要性について学びました。

4 国際活動

日本赤十字社は、国際赤十字の有力な一員として、赤十字国際委員会及び赤十字・赤新月社連盟の要請により、地域紛争や自然災害による犠牲者を救援するため、医療要員の派遣を始めとして、医薬品や食料等の救援物資を送るなど、さまざまな救援活動を行っています。令和3年度について、発展途上国における保健衛生事業への援助、地域紛争や被災国を支援するための救援金募集等を行いました。

(1) 発展途上国開発援助（アジア・大洋州「給水・衛生」キット支援事業）

中国・四国各県支部との共同事業として、洪水やサイクロンなどの災害に対し、現地で給水・衛生活動が展開できるよう、「給水・衛生キット」の開発・配備に対して継続的な資金援助を行いました。

【助成金額】

令和 2 年度	令和 3 年度	前年対比
810,711 円	853,353 円	105.2%

(2) 海外救援金の募集

① NHK海外たすけあい

1983年から日本赤十字社とNHKが共同で実施している募金キャンペーンで、海外の紛争や災害等で苦しんでいる人々を支援するために、今年度も12月1日から25日の間、募金の受付を行いました。

【受付件数および受付金額】

		平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
総 額	件数	2,306 件	1,618 件	1,494 件	1,568 件
	金額	6,505,425 円	6,312,885 円	7,889,031 円	8,828,844 円
内 訳	募金箱	件数	966 件	999 件	970 件
	街頭募金等	金額	789,682 円	928,437 円	924,167 円
	ダイレクト	件数	1,340 件	619 件	524 件
	メール	金額	5,715,743 円	5,384,448 円	6,964,864 円
					7,778,109 円

② その他の救援金

世界各国の赤十字社・赤新月社を通じて被災国の赤十字社に寄せられる「海外救援金」は、被災国の赤十字社が行う被災者支援活動に役立てられます。令和 3 年度も被災国の赤十字社からの依頼に基づいた救援金を募集しました。

救 援 金 区 分	件数	金 額
バングラデシュ南部避難民救援金	7 件	10,839円
2021年ハイチ地震救援金	5 件	30,114円
アフガニスタン人道危機救援金	4 件	8,582円
トンガ大洋州噴火津波救援金	8 件	112,085円
ウクライナ人道危機救援金	63 件	12,725,516円
無指定海外救援金	4 件	24,555円
合 計	91 件	12,911,691円

5 赤十字奉仕団による活動

赤十字奉仕団は、赤十字の理念である人道的な諸活動を実践するため、地域や活動の分野ごとに結成されたボランティア組織であり、その活動は、赤十字運動の普及にかかせないものです。

当支部では、奉仕団相互の連携強化を図るとともに、活動の中心となるボランティアリーダーを育成し、活動の充実に向けた体制強化を図っておりますが、コロナ禍の令和3年度は、感染拡大防止の観点から、大規模な会議や研修は書面やWEBを活用して開催しました。

【山口県の奉仕団結成状況】（令和4年3月末現在）

奉仕団の種類	団数	団員（登録者）数	特　　色
地域奉仕団	41団	7,830人	主として、市町の婦人会組織等。一定の地域ごとに結成され、赤十字の思想普及、活動資金募集、災害時の救護活動支援等、地域に密着した活動を行っている。
青年（学生）奉仕団	3団	66人	青年や学生で組織され、献血推進や社会福祉施設の訪問等の活動を行っている。
特殊奉仕団	安全奉仕団	1団	150人 救急法・水上安全法・幼児安全法の指導員で結成され、県民の健康と安全を守るための講習会の指導を行っている。
	アマチュア無線奉仕団	1団	87人 アマチュア無線免許保有者で結成され、非常災害時において通信網を確保し、正確かつ迅速な情報の収集と伝達を行うことを目的に活動している。
	青少年赤十字賛助奉仕団	1団	46人 青少年赤十字活動の普及や加盟促進を目的に活動しており、青少年赤十字の指導経験者や、目標に賛同された方で組織されている。
	災害救護奉仕団	2団	96人 災害時に赤十字が実施する救護活動に協力することや、平時に防災思想の普及を図ることを目的に組織されている。
合　　計	49団	8,275人	

（1）赤十字奉仕団相互の連携強化

① 赤十字奉仕団支部委員会の開催

新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、令和3年度は書面開催としました。

名　称	実施時期	会　場	参加者
赤十字奉仕団山口県支部委員会			（書面開催）

② 赤十字奉仕団相互の連携強化

赤十字事業を県内全域へと広げるため、地域と密着した活動をしている地域奉仕団を中心に、青年（学生）奉仕団、専門技能を持つ特殊奉仕団の連携を促進していますが、令和3年度は、感染症拡大防止の観点から、一部の連携事業は中止しました。

【奉仕団別の連携事業】

奉仕団名	地域奉仕団との連携事業
青年（学生）奉仕団	献血推進や社会福祉施設の訪問
安 全 奉 仕 団	県内全域での救急法等講習会指導・受講促進
アマチュア無線奉仕団	通信訓練及び県・市町防災訓練への参加
青少年赤十字賛助奉仕団	JRC 未加盟校への加盟促進
災 害 救 護 奉 仕 団	県内全域での防災講習会指導・防災減災意識の向上

(2) ボランティアリーダーの育成

新型コロナウイルス感染症対策のため、県境を越えて参集する研修等は中止となりましたが、オンライン研修を活用しボランティア活動の中心となるボランティアリーダーを育成し、活動の更なる充実・拡大を図りました。

○全奉仕団

会議名	実施時期	会場	参加者数
赤十字奉仕団支部指導講師研修会		(中止)	

○防災奉仕団

研修名	実施時期	会場	参加者数
防災教育事業主任指導者研修	9月11日	(WEB開催)	3人
防災ボランティア・リーダー養成研修会	2月5日	(WEB開催)	1人

(3) 会議・研修会等の開催および各奉仕団の活動

○全奉仕団

会議名	実施時期	会場	参加者数
赤十字奉仕団中央委員会	5月28日	(WEB開催)	1名
赤十字奉仕団 中央委員会常任委員会	1月17日	(WEB開催)	1名

○地域奉仕団

会議名	実施時期	会場	参加者数
山口県赤十字奉仕団 委員長会議		(書面開催)	

研修名	実施時期	会場	参加者数
山口県赤十字奉仕団 中堅団員研修会	中部2月2日 東部2月22日 西部3月2日	中部：(中止) 東部：シンフォニア岩国 西部：サンワーク美祢	23名
中国・四国ブロック 赤十字奉仕団研修会	11月11日	広島県支部主催 (WEB開催)	

地域奉仕団では、主な活動として、5月の赤十字運動月間に合わせ、毎年県下一斉ボランティアを実施していますが、令和3年度に引き続き、時期を限定せずに年間通して清掃活動や感染防止対策を講じた炊き出し訓練、地域ごとの研修会を行いました。

また、アレルギーを持つ方を支援するための「災害時の非常炊出し支援を考える研修」に延べ17人が参加しました。



山口県赤十字奉仕団中堅団員研修会
(西部会場) の様子



炊き出し訓練を実施する
山口市小郡赤十字奉仕団

○青年（学生）奉仕団

会議名	実施時期	会場	参加者数
中国・四国ブロック 青年赤十字奉仕団連絡協議会	6月6日	高知県支部主催 (WEB開催)	県青年奉仕団 委員長 1人 支部職員 1人
山口大学学生赤十字 奉仕団年末総会	12月17日	山口大学共通23番教室	23人
山口大学学生赤十字 奉仕団新年総会	1月7日	山口大学共通33番教室	11人
山口県立大学赤十字奉仕団総会	3月31日	(WEB開催)	11人
青年（学生）赤十字奉仕団総会	3月20日	(WEB開催)	17人

研修名	実施時期	会場	参加者数
中国・四国ブロック 青年赤十字奉仕団研修会	9月20日	(WEB開催)	3人
山口県青年（学生）赤十字 奉仕団リーダー研修会		(中止)	

例年実施している献血推進活動は、感染流行時期を除いて学内・街頭献血の呼びかけを月1回程度実施しましたが、高齢者施設への訪問等の活動については感染症拡大防止のため中止となりました。

また、アレルギーを持つ方を支援するための「災害時の非常炊出し支援を考える研修」に延べ18人が参加しました。



海外たすけあい街頭募金



アレルギーに配慮した炊き出し訓練

○安全奉仕団

会議名	実施時期	会場	参加者
山口県赤十字安全奉仕団総会		(書面開催)	
山口県赤十字安全奉仕団役員会		(書面開催)	

【各講習会における安全奉仕団員の協力回数】

講習区分	講習回数（団員協力／全講習数）	協力団員（実人数）
救急法	148回／230回	42人
幼児安全法	7回／ 9回	9人

○アマチュア無線奉仕団

会議名	実施時期	会場	参加者数
山口県赤十字アマチュア無線奉仕団総会		(書面開催)	
山口県赤十字アマチュア無線奉仕団役員会		(WEB開催)	

研修名及びクラブ局運用	実施時期	会場	参加者数
山口県赤十字アマチュア無線奉仕団研修会		(中止)	
第1回クラブ局運用		(中止)	
全国通信訓練	10月30日、 31日	山陽小野田市 竜王山公園	11名

全国の赤十字アマチュア無線奉仕団との通信訓練は、9回行いました。

○青少年赤十字賛助奉仕団

会議名	実施時期	会場	参加者数
全国青少年赤十字賛助奉仕団協議会総会		(書面開催)	
山口県青少年赤十字賛助奉仕団総会		(書面開催)	
中国・四国ブロック青少年赤十字賛助奉仕団連絡協議会・研修会		(書面開催)	

○災害救護奉仕団

会議名	実施時期	会場	参加者数
山口県赤十字防災奉仕団役員会・総会		(書面開催)	

6 赤十字思想の普及

日本赤十字社では、赤十字の普遍的な使命である人道的任務を達成するため、多くの人々との温かい思いを結集して赤十字運動を推進しています。

当支部では、赤十字思想に賛同いただける会員を募集するために、赤十字活動の大切さを県民の皆様に広く周知するなど、新型コロナウイルスの地域における感染状況にも配慮しながら、様々な広報活動を行いました。

(1) 赤十字会員の募集

赤十字の会員とは、日本赤十字社の目的に賛同し、支援してくださる方のことです。

会員には、会費として年額2,000円以上の協力をいただく「会員」と、500円を目安に協力をいただく「協力会員」があり、個人・法人を問わず、どなたでも加入することができます。

日本赤十字社の活動は、支援してくださる会員によって支えられているため、一人でも多くの方に会員になっていただけるようお願いしています。

【会員の推移（協力会員除く）】

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
個人会員	797人	1,747人	1,719人
法人会員	1,498社	1,437社	1,470社
会員合計	2,295人・社	3,184人・社	3,189人・社

(2) 赤十字運動月間キャンペーン

5月1日の創立記念日、5月8日の「世界赤十字デー」にちなんで、毎年5月を『赤十字運動月間』として、全国各地で国民の皆さんに赤十字活動の報告や継続的な協力をお願いしています。

令和3年度も、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、募集時期の延期・延長や募集方法の変更など、地域の感染状況に応じた柔軟な対応を行いました。

また、レッド・ライトアップ・プロジェクト、県内のテレビCM放映や新聞広告についても例年通り実施し、日赤の活動の広報に努めました。

① レッド・ライトアップ・プロジェクト

多くの人々に「人道の大切さ」について考え、理解を深めていただくきっかけとして、5月の赤十字運動月間に各地の公共・民間施設を赤色に灯す運動を平成28年度から全国一斉に実施しています。

6年目となる今年度も、夜空に浮かぶ赤十字色の灯りが、過去の震災や被災地で苦しんでいる人を「忘れない、風化させない」という想いにつながることを願って、県内の2施設に協力をいただき、世界赤十字デー（5月8日）を中心とした期間にライトアップを実施しました。

【ライトアップ実施施設】

協力先	場所	期間
山口県国際総合センター	海峡ゆめタワー	令和3年5月7日～9日
三宅商事	三宅商事本社ビル	令和3年5月1日～31日



海峡ゆめタワー



三宅商事（本社）

② マスメディアによるPR

赤十字運動月間を広く県民に周知し支援をお願いするため、テレビや新聞による広報を実施しました。

【テレビ】15秒CM

◆民放テレビ：山口放送、テレビ山口、山口朝日放送

◆ケーブルテレビ

- ・アイキャン（岩国・和木・周防大島）、周防ケーブルネット（柳井）、
- ・Kビジョン（下松・光・平生・上関）、シティーケーブル周南（周南）、
- ・山口ケーブルテレビ（山口・防府・美祢）、Jコム下関（下関）、
- ・萩ケーブル（萩）、ほっちゃTV（長門）

【新聞広告】

山口新聞、中国新聞

(3) 広報活動

① 広報資材の作成・配布

県内全域へ赤十字事業・活動を報告するため、広報誌を年2回発行しました。また、個別事業の報告のためのパンフレットを発行し、関係者および協力先へ配布しました。

広報資材名	発行時期	発行部数	配布・設置先
赤十字やまぐち2021秋号	令和3年10月	370,000部	各地区分区（原則各戸配布）、講習受講者、赤十字センター他
赤十字やまぐち2022春号	令和4年3月	430,000部	
JRCトピック	令和3年3月	1,000部	JRC加盟店他
奉仕団だより	令和4年3月	300部	奉仕団員、各地区分区

② マスメディアを通じた情報発信

県内における赤十字活動を広く県民に知ってもらうため、プレスリリースを発出してテレビ局や新聞社からの取材を促進し、報道へと繋げました。

【報道件数】発出件数22件

テレビ	新聞
11 件	17 件

③ ホームページ・SNSによる情報発信

主に若年層の支持者を増やすために、引き続きホームページとフェイスブックで写真や動画を活用した目に見える活動報告を行いました。

(4) 企業・団体とのタイアップによるCSR活動の普及

① 赤十字サポーター

平成25年度から実施している赤十字サポーター制度では、法人のCSR活動を促進するため、赤十字活動資金への継続的な支援と、企業・団体の事業内容に沿った赤十字事業への協力という要件を満たした企業・団体を、赤十字サポーターとして認定しています。令和3年度は、新たに2法人の登録があり、認定サポーターは23法人となりました。

【令和3年度赤十字サポーター認定法人】

社名	所在地	認定日	支援協力内容
エコル	宇部市	4月1日	ペットボトルキャップのリサイクル収益寄付、募金箱の設置
中原組	長門市	9月1日	寄付つき自動販売機の設置



株式会社エコル



株式会社中原組

② レノファ山口とのパートナーシップ協定に基づく取組の充実

平成28年3月に締結したパートナーシップ協定の内容に基づき、令和3年度は以下の相互協力を行いました。

【赤十字⇒レノファ】

実施項目	実施時期	備考（会場・内容等）
ホームゲーム救護所要員としてのボランティア救護員の派遣（各試合3名・9試合）	2～12月	山口維新百年記念公園陸上競技場 赤十字病院の看護師等（延べ11人） ※新型コロナウイルス感染症の影響で日程の変更や無観客試合等に対応
救急法講習会の実施	(中止)	レノファ山口FCのボランティア団体「TeamBONDS」への救急法講習実施
広報協力	適時	保有施設でポスター等の掲示

【レノファ⇒赤十字】

実施項目	実施時期	備考
献血イベントの実施	5月5日 7月11日	受付58名、献血54名 受付29名、献血27名
広報協力	適時	保有施設でポスター等の掲示

（5）若年層への普及

令和3年度もコロナ禍のため、大学での赤十字関連の講義は実施できませんでした。引き続き、若年層に対する赤十字事業の周知を図るため、県内の大学への協力を呼びかけていきます。

（6）表彰

活動資金の協力や赤十字事業の進展に尽くされた方に表彰を行いました。

令和3年度は、コロナ禍にもかかわらず積極的にボランティア活動に貢献された3名の方に特別感謝状を贈呈しました。

表彰区分		表彰基準		個人 (人)	法人 (社/団体)	合計 (社/団体)
活動資金	社長感謝状	金色有功章受章後 (累計) 50万円以上		6	4	10
	有功章	金色	(累計) 50万円以上	10	5	15
		銀色	(累計) 20万円以上	7	25	32
	支部長表彰状 支部長感謝状	(累計) 10万円以上		21	33	54
	特別社員章	(累計) 2万円以上		54	22	76
	小 計			98	89	187
奉仕	支部長特別感謝状	コロナ禍での奉仕活動 の貢献度が極めて高い		3	0	3
	小 計			3	0	3
献血者	有功章	金色	献血回数100回以上	92		92
		銀色	献血回数 70回以上	138		138
	小 計			126		126
合 計				227	89	316

○表彰式

社長感謝状及び金色有功章、支部長特別感謝状の受章者の方には、下記日程で支部長から賞状や有功章の伝達を行いました。



【日本赤十字社山口県支部表彰式】

(日程) 令和4年3月24日(木)

(会場) ホテルニュータナカ

(7) 国際人道法の普及

令和3年度は、今後の支部管内への普及に向けて、支部職員1名が本社主催の国際人道法オンラインセミナーに参加しました。

研修名	実施時期	参加者
国際人道法オンラインセミナー	2月15~17日	支部職員1名

7 赤十字活動資金の確保

日赤では、独立採算となる医療事業、血液事業、社会福祉事業以外は、全て県民の皆様からお寄せいただく活動資金を財源に、災害救護をはじめ国際活動、救急法等の講習普及、青少年赤十字の育成、赤十字ボランティア活動の促進等、多岐にわたる事業を実施しています。

(1) 令和3年度の活動資金募集実績

活動資金については、少子高齢化が加速し、地域社会が変容していく中、新型コロナウイルス感染症の影響による不安定な経済情勢下のため、大変厳しい状況にありましたが、自治会・町内会を基盤とした募集を軸に、広報誌の充実や遺贈・相続財産寄付に係る協力機関等との協働など、地道な広報活動により大口寄付等の協力を得ることができ、3年連続で2億円を超え、目標を達成することができました。しかしながら、人口減少等の影響により、今後も活動資金の減少が強く懸念されることから、引き続き確保対策が必要です。

【令和3年度の活動資金募集状況】

区分	令和3年度目標	令和3年度実績	令和2年度実績	前年対比
一般 (相続寄付除く)	180,000千円	245,590千円 (187,778千円)	224,521千円 (212,521千円)	109.4% (88.4%)
法人	20,000千円	31,594千円	16,726千円	188.9%
合計 (相続寄付除く)	200,000千円	277,184千円 (219,372千円)	241,247千円 (229,247千円)	114.9% (95.7%)

(2) 一般対策

① 地区分区との連携

本年もコロナ禍での赤十字運動月間となりましたが、感染防止を最優先に募集時期や方法等の変更を呼びかけました。例年、募集に先立って地区分区で開催される協賛委員会や自治会長集会等の一部は中止となりましたが、地区分区担当職員や各自治会長様等の協力により、各地域で募集活動を推進していただきました。

【地区分区の協賛委員会議等】

行 事 名	開 催 時 期
自治会長集会（下関市）	令和3年3月～4月
日本赤十字社下関市地区代表協賛委員・分区長合同会議	令和3年4月7日
日本赤十字社防府市地区協賛委員会春季定例総会	令和3年4月26日
日本赤十字社山陽小野田市協賛委員会総会	令和3年4月26日

② 広報誌を活用した募集

平成30年度から広報誌「赤十字やまぐち」の秋号に振込用紙を付けて発行・配布しておりますが、本年の2021秋号においても、多くの県民の方から応諾をいただきました。

【応諾実績】

年 度	件 数	金 額
令和2年度	250 件	4,469,636 円
令和3年度	207 件	4,698,911 円

(3) 法人対策

① ダイレクトメールによる募集

例年、年3回（5月・9月・1月）のダイレクトメール発送により、過去に協力いただいた法人に対して活動資金の募集を行っています。令和3年度は、予定通り発送し、下表のとおり応諾をいただきました。

また、1月の発送にあわせて、民間の調査会社から購入した法人リストを活用し、過去に依頼実績のない2,904社に対して、新たにDMを発送したところ、132社から240万円を超える応諾をいただきました。

【募集状況】

発送時期	発送数	応諾数	応諾率	協力金額
5月発送分	1,666 件	1,027 件	61.6%	10,799,590 円
9月発送分	620 件	116 件	18.7%	1,236,803 円
1月発送分	498 件	30 件	6.0%	336,000 円
新規分	2,903 件	132 件	4.5%	2,428,555 円

【発送対象】

発送月	発送対象
5月	過去3年以内で1度でも納入のあった法人（1,666法人）
9月	5月発送分の未応諾法人（620法人）
1月	5月、9月発送分の未応諾法人（498法人）
新規分	前年度決算利益500万円以上かつDM未発送未応諾の法人（2,904法人）

② 訪問による募集

表彰対象法人及び年額5万円以上協力いただいた法人32社に対して、表彰品、受領書を直接お届けして感謝の意をお伝えするとともに、赤十字事業についての説明をさせていただき、今後のさらなる協力をお願いしました。

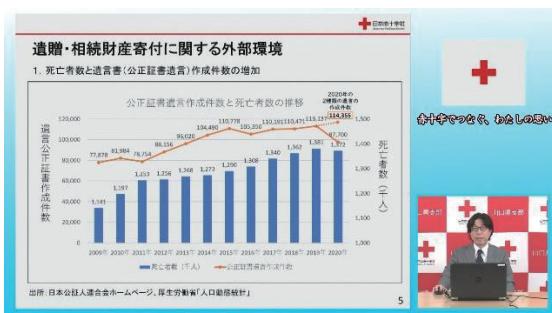
（4）多様な活動資金納入方法の周知

日赤では、窓口払いや銀行振り込み以外にも、口座振替やクレジットカード払い、コンビニ払い、ネット銀行決済等様々な協力方法を整えています。本年度も、広報誌やホームページ等で紹介し、活動資金への協力促進を図りました。

（5）遺贈・相続による寄付の獲得

専門家に対して当支部が遺贈等の受付団体であることを周知するため、県内の税理士事務所および司法書士事務所へ広報誌を配布しました。

また、山口県司法書士会との共催による「遺贈・相続セミナー」を令和4年2月にオンラインで開催しました。



【無料WEBセミナー&相談会】

(日程) 令和4年2月19日（土）

(内容) ①司法書士による相続口座

②遺贈・相続財産寄付について

③司法書士による電話相談

8 医療事業

新型コロナウイルス感染症対策に全力で取り組むとともに、医療機能の分化・連携や地域包括ケアシステムの構築など医療・介護の制度改革に適切に対応しつつ、県民ニーズに応じた医療提供体制の充実・強化に努めました。

(1) 山口赤十字病院

① 病院機能の充実・強化

(ア) チーム医療の推進

患者の生活の質（QOL）の維持・向上等を図るため、NST（栄養サポートチーム）やRST（呼吸サポートチーム）、糖尿病透析予防指導、糖尿病合併管理など、複数の医療専門職が組織横断的に連携して治療やケアに当たるチーム医療を積極的に推進しました。

また、2020年度から活動開始した医療安全に関わる臨床倫理コンサルテーションチームや転倒転落防止対策チーム、患者安全チームにおいても更なるチーム力の強化を行いました。

(イ) 入退院支援機能等の充実

患者と家族の生活相談や入院患者の円滑な入・退院の支援、地域の医療機関等との連携を強化するため、退院調整担当の看護師を病棟に常駐させるなど施策を実施しました。

また、訪問看護ステーションをはじめ、市町や地域の保健医療福祉機関との連絡・調整を図りながら、患者が退院後も安心して在宅療養できるよう支援を行いました。

(ウ) リハビリテーション提供体制の拡充・強化

身体の不活動等によって生じる廃用症候群を予防し、早期のADL向上と社会復帰を図るために、十分なリスク管理の下に、疾患の発症後早期から積極的なリハビリテーションを実施しました。

(エ) 薬剤指導業務の充実

医療技術の進展とともに薬物療法が高度化していることから、医療の質の向上及び医療安全の確保の観点から、病棟へ薬剤師を配置するとともに、入院患者に対する薬剤指導を行いました。

(オ) 高度医療機器の共同利用の推進

地域医療支援病院として、地域の医療機関における診療の充実を図るため、高度医療機器の共同利用を積極的に進めています。

(カ) 食事指導業務の充実

入退院支援センターと入院患者に係る情報を共有することで、入院時から適切な食事の提供を行うとともに、入院患者の病態に対応した安全で治療効果の上がる特別食が提供できるよう取り組みました。

また、入院・外来患者に対し、疾病の予防・回復、健康の維持・増進に役立つ栄養指導を積極的に行うとともに、退院患者に係る情報については、退院後の療養生活に役立つよう、かかりつけ医へ栄養情報を提供しました。

(キ) 特定行為が実施できる看護師の育成

厚生労働省指定研修機関として、特定行為（医師・歯科医師が予め作成した手順によりできる行為）が実施できる看護師の育成に取り組みました。

(ク) 病院機能評価の更新認定

病院機能評価は、国民が適切で質の高い医療を安心して受けることができるよう公益財団法人日本医療機能評価機構が行っているもので、急性期医療を中心に地域医療を支える基幹的病院として、一定水準を有する「認定」を受けています。継続して認定が受けられるよう、業務改善を行っています。

② 医療安全の推進

良質な医療サービスを提供する上での最重要課題である医療安全を確保するため、患者の権利などについてWEB研修を行いました。

また、チームとしての活動の充実を図るため、インシデントレポートを振り返り検討する場として患者安全カンファレンスや、倫理的事例に関する検討として臨床倫理コンサルテーションを、毎月、開催しました。

さらに、実効性のある医療安全対策を推進するため、山口県立総合医療センター及び徳山中央病院と連携し、相互に医療安全対策に関する評価を行うとともに、当院の医療安全対策のノウハウを活かし、阿知須共立病院における医療安全対策のさらなるレベルアップに協力しています。

③ 経営の安定化

(ア) 収益向上対策

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で外来・入院患者が減少していることから、地域医療連携の強化による紹介患者の増加や、効果的なベッドコントロール、手術室の効率的な運営などを通じて、新規入院患者の増加に取り組みました。

また、診療報酬改定を踏まえ、取得可能な施設基準については積極的に対応するとともに、本社の「費用をかけずに収益向上」対策を活用し加算等の算定率向上に努め、診療単価のアップを図りました。

さらに、未収金発生を未然に防止するとともに、発生した未収金の早期回収に取り組みました。

(イ) 費用の適正化

材料費、委託費については、業者等と粘り強く交渉し、適正化に努めました。

(ウ) 経営管理機能の強化

経営課題を抽出し、戦略的な業務運営を行うことができるよう、パフォーマンス指標により経営課題ごとに対策と数値目標を定め、PDCAサイクルの進行管理による評価・改善に努めました。

また、新棟建設も含めて大型投資が続き、その償還財源の確保が重要な課題であることから、長期資金計画を策定し、資金収支を計画的に管理しています。

④ 新型コロナウイルス感染症への対応

(ア) 病床の確保

県からの要請により、入院協力医療機関として、即時受け入れが可能となるよう病床（感染症の蔓延状況に応じて15床～23床）を確保しています。

2021年度入院患者数 実345人、延3,020人

(イ) ワクチンの接種

山口市からの要請により市民等への新型コロナワクチン接種を行いました。

2021年度ワクチン接種者数 延7,553人

(ウ) 病院内における主な感染防止対策

- ・発熱患者対応診察室を館内に6室、館外に3室設置しました。
- ・全ての入館者に対しての発熱チェックを実施しました。
- ・入館時間の変更や入院患者への面会禁止を行うとともに、ホームページや全館放送により周知しました。

(エ) WEB面会の実施

コロナ禍で面会を制限していることから、患者さんや患者家族等がWEB面会でできるようにしました。

(オ) その他（再掲）

県からの要請により、宿泊療養施設等に職員を山口県クラスター対策チームとして派遣しました。

⑤ 地域への貢献

(ア) 地域医療機関等との連携強化

地域の医療機関との患者の紹介・逆紹介を円滑に進めることができるように、診療所等への訪問などにより要望の把握に努めるとともに、当院の地域連携パスの運用強化や退院支援・退院調整機能の強化を図りました。

また、当院ホームページ内に登録医療機関紹介サイトを継続整備し、地域医療機関等との連携体制について周知を図りました。

(イ) 地域の医療機関との連携による高度医療機器等の有効活用

地域医療支援病院として、地域の医療機関の効果的な診断を支援するため、当院の高度医療機器等の共同利用を進めました。

(ウ) 広報の充実、マーケティング活動の展開、患者満足度の向上

新型コロナウイルス感染症の影響で、毎年実施している市民公開講座や体験学習などの地域とのふれあい活動は開催できませんでしたが、当院の機能や取り組みをより多くの関係者に知ってもらうため、ホームページの充実や地域連携紙を活用して地域医療機関との関係づくりを進めました。

また、患者サービスの向上等の参考とするため2022年2月から、入院患者及び外来患者を対象として患者満足度調査を実施しました。

(エ) 小児救急医療の拡充

当院では山口・萩地域の小児救急医療拠点病院として、入院が必要な小児をいつでも受け入れる体制を整えています。

2020年からは、防府市も参加し、地域医療機関の協力の下、山口・防府地域夜間こども急病センターとして、夜間の小児救急の受け入れを行っています。

⑥ 病棟の建替

病棟の耐震化や機能向上を図ることにより、当院が地域の基幹病院・災害拠点病院として、将来にわたって安定的に医療を提供できるよう、建替工事を進めています。

【今後のスケジュール】

令和4年8月16日 新病棟竣工

～病棟移転～

令和4年10月初旬 新病棟の使用開始

～既存病棟の改修・解体、外構整備～

令和5年10月頃 工事完了

【新病棟（北病棟）の概要】

- 構造：鉄筋コンクリート造及び鉄骨造
- 階数：地上5階建（鉄骨部分は地上8階建）
- 延床面積：約1万4千m²
- 主な構成
 - 1階：外来、放射線、中央処置室、救急、こども急病
 - 2階：外来、内視鏡、透析センター、化学療法、薬剤部、検査部
 - 3階：リハビリ、中央材料、栄養課、医局
 - 4階：一般病床（40床）、HCU（8床）
 - 5階：一般病床（40床）

（2）小野田赤十字病院

① 医療提供体制の確保

- （ア）新型コロナウイルスの感染者の急増に対応するため、入院協力医療機関に対する設備整備補助を活用して、全身用X線CT撮影装置と医用画像保管装置を整備しました。
また、新型コロナウイルス感染症患者の入院受入れを継続するため、対象病室の空調機を更新しました。
- （イ）老人保健施設の一部を、医学的処置が必要となる介護医療院に転換するため、全居室にパーテーションを整備し、一部居室については酸素投与や喀痰吸引ができるよう医療ガス配管の増設工事を行いました。
- （ウ）介護保険請求業務等の効率化と質の向上を図るため、介護医療院管理システムと訪問看護請求システムを追加整備しました。

② 医療安全の向上

- （ア）医療安全の意識の向上を図るため、インシデント・アクシデントレポートの集計と分析を委員会や会議で毎月報告し、職員に伝達するとともに、アクシデント（レベル3a以上）の評価を1か月後に各部署で行っています。また、軽微なインシデント（レベル0）レポートの提出の啓発活動や、医療安全ニュースの発行などによる情報共有にも努めました。
- （イ）医療安全意識と安全文化の醸成を図るため、5S活動に各部署で取り組みました。医療安全マニュアル見直しをしてきましたが、まだ不足があり次年度に向けてもマニュアルの改訂見直しを行っていきます。医療安全研修は、新型コロナウイルスの影響もあり、部署ごとのKYT（危険予知訓練）、回数を増やしての分散による集合訓練やビデオ研修を取り入れ、出席率を上げるよう努めました。
- （ウ）医療安全推進週間（11月21日～27日）には、外来患者向けに、「インフルエンザ」「新型コロナウイルス」のリーフレットを作成・配布するとともに、各部署では、ポスターの掲示、部署内の安全対策の取組の確認をしました。また、この時期は、介護医療院への転換など業務が繁忙だったため、緊急対応訓練は行えませんでしたが、看護部内でBLS（一次救命措置）訓練、新入職者へのAED（自動体外式除細動器）訓練を行いました。
- （エ）院内感染防止のため、感染報告を医療安全管理者が取りまとめ感染対策委員会と共に行動しています。新型コロナウイルス関連の会議にも出席し、院内患者や濃厚接触者等となった職員への対応や経過の把握も行い、感染防止に努めました。院内でクラスターの発生はなく、経過しました。

③ 経営の安定化

(ア) 病院機能の転換と強化

介護療養病床を介護医療院に転換する計画に基づき、令和2年4月に日赤グループ初となる介護医療院を定員12名で開設しました。さらに令和3年10月には、定員100名の老人保健施設の一部を転換し、充実が求められている本介護医療院を定員60名に増員したところです（既存の定員12名は廃止）。同時に、老人保健施設については、本来の中間施設としての役割をしっかり発揮できる体制を構築するため、定員40名に減員しております。

また、病院の質を高め、患者増につなげるため、職員が1年以上かけて準備した病院機能評価を令和2年2月に受審し、同年6月5日に認定されたところであります。課題点について検討し、改善に取り組んでいます。

(イ) 収益向上に向けた施設基準・加算の取得

令和2年3月に急性期病床を全て地域包括ケア病床に転換し、地域包括ケア病棟の診療報酬については、「地域包括ケア病棟入院料2」からの開始となりましたが、令和2年11月に、訪問看護件数の増を図るなど、より厳しい基準をクリアすることにより「地域包括ケア病棟入院料1」に格上げを行いました。また、令和元年6月に設置した訪問看護ステーションにつきましても、順調に訪問件数を伸ばしており、現在は事業単体での黒字化を達成しています。さらに、介護医療院については、現在取り得る、収益上も有利な適用区分「I型（III）」で許可を得ています。

また、診療報酬改定について、関係職員は改定内容を十分に把握・理解し、報酬の基本料や各種加算を最大限取得できるよう、関係部署が連携し、常に状況を把握しながら速やかに対応してまいります。

(ウ) 経営健全化に向けた取組の推進

令和2年7月に本社から重点支援病院に指定されたため、介護医療院の定員増や訪問看護の更なる実施など、本社と協議しながら経営改善に取り組みました。また、令和3年度から5年度までの経営健全化計画を本社の指導の下で作成し、計画の達成に向けて取り組んでいます。

(エ) 入院患者の確保

地域の診療所を定期的に訪問し、当院の特長等をPRするとともに、空きベッドの情報を、従来のFAXに変えて院長からのeメールにより適時提供しています。また、診療所との連携を行う上での課題や対策を話し合う地域連携会議を開催しています（令和3年度は、新型コロナウイルス感染症対応のため非開催）。

④ 新型コロナウイルス感染症対策

(ア) 診療及び検査、入院治療、ワクチン接種に対する協力

新型コロナウイルス感染症に関しては、県から「診療・検査医療機関」の指定を受けて外来診療を行うとともに、山陽小野田市からの委託により抗原定量検査を実施しました。また、県からの要請により、4月から「入院協力医療機関」として、即時受け入れが可能となるよう病床10床（令和4年1月からは13床）を確保し、令和3年度中に累計99名の入院患者を受け入れました。

さらに、一般の方への接種日を週3日設けるなどにより、ワクチン接種を行うなど、赤十字病院としての公的役割を果たしています。

(イ) 院内感染防止対策

令和2年度に新型コロナウイルス感染症緊急包括支援事業の各種補助金で整備した、体表面温度計測タレット型サーマルIPカメラなどを活用するとともに、職員へのPPE（個人防護具）着用の徹底、手洗いチェックをを使った研修や厚生労働省委託事業を活用したWeb研修、外来患者への「新型コロナウイルスとインフルエンザの違い」のリーフレットによる啓発などを実施しました。また、地域の感染防止対策加算1の医療機関と連携するとともに、定期的なカンファレンスに参加し、意見交換をしました。

さらに、感染症流行期間中の面会制限・面会禁止を実施しました。

(ウ) 医療従事者の派遣（再掲）

県からの要請に基づき、宿泊療養施設へ看護師を派遣しました。

⑤ 地域の行事への参加（再掲）

毎年度、地域の行事に対し、けがや傷病者救護のため看護師等を派遣しています。令和3年度は、サイクリングイベント「ツール・ド・しものせき2021」の救護スタッフとして、5名の看護師を派遣しました。

⑥ 地域住民へのPR

ホームページや広報誌を充実し、当院の情報をより分かりやすく、より早く伝えていくこととしております。

(3) 本年度の診療状況

区分	山口赤十字病院	小野田赤十字病院
病床数	427床	120床
外来患者数	延べ数	167,868人
	一日平均	693.7人
入院患者数	延べ数	106,517人
	一日平均	291.8人

9 看護師等の養成

将来、県内の赤十字施設で就業する意思がある看護師等の資格取得を目指す学生の就学支援を目的に、奨学金貸与制度を運用し、看護師等の養成を行っています。

10 血液事業

「血液事業」とは、血液を提供していただける方を募集し、その血液を採取し、血液製剤（輸血用血液製剤と血漿分画製剤）として、治療を必要とする患者さんのため、医療機関に供給する一連の事業のことをいいます。この血液製剤は、健康な方々から自発的に無償で血液を提供していただく「献血」により作られており、わが国の血液事業は、「献血」によって支えられています。

令和3年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大の影響があったものの、山口県では51,845人から献血のご協力をいただき、県内の133医療機関に輸血用血液製剤59,083本を、不足することなくお届けすることができました。

(1) 献血状況

① 種別献血者数

(単位：人)

種 別		事業 計画数	令和3年度 献血者数	令和2年度 献血者数	事業計画比 (%)	前年度比 (%)	前年度差 (人)
全 血 獻 血	400mL	40,393	41,393	42,297	102.5	97.9	▲ 904
	200mL	416	523	473	125.7	110.6	50
成 分 獻 血	血小板	3,381 (55,900)	3,831 (66,570)	3,711 (60,840)	113.3 (119.1)	103.2 (109.4)	120 (5,730)
	血 漿	6,157	6,098	6,432	99.0	94.8	▲ 334
献血者数合計		50,347	51,845	52,913	103.0	98.0	▲ 1,068

※「血小板成分献血」の（ ）内の数値は「血小板採血量」である。なお、事業計画数、献血者数及び前年度差の数値の単位は「単位」である。

- 1) 献血者数は、全血献血と成分献血を併せて51,845人で、事業計画比103.0%、前年度比98.0%、前年度より1,068人減少した。
- 2) 全血献血のうち、400mL献血が41,393人で98.8%を占めており、事業計画比102.5%、前年度比97.9%、前年度より904人減少した。
- 3) 成分献血のうち、血小板成分献血は、一人の献血者から2人分の血小板量である20単位（1人分は10単位）協力していただくことを推進しており、献血者数は前年度比103.2%であり前年度より120人増加し、また、血小板採血量は事業計画比119.1%、前年度比109.4%であり増加した。
- 4) 成分献血のうち、血漿成分献血が6,098人で事業計画比99.0%、前年度比94.8%、前年度より334人減少した。

② 施設別献血者数

(ア) やまぐち献血ルーム 「For you」 (稼働日数：311日)

(単位：人)

種 別		事業 計画数	令和3年度 献血者数	令和2年度 献血者数	事業計画比 (%)	前年度比 (%)	前年度差 (人)
全 血 獻 血	400mL	3,732	4,967	5,201	133.1	95.5	▲ 234
	200mL	120	209	232	174.2	90.1	▲ 23
成 分 獻 血	血小板	3,381 (55,900)	3,831 (66,570)	3,711 (60,840)	113.3 (119.1)	103.2 (109.4)	120 (5,730)
	血 漿	6,157	6,098	6,432	99.0	94.8	▲ 334
献血者数合計		13,390	15,105	15,576	112.8	97.0	▲ 471
1 日当り 献血者数		43.1	48.6	50.2			▲ 1.6

(イ) 移動採血車 (稼働台数：延べ704台)

(単位：人)

種 別		事業 計画数	令和3年度 献血者数	令和2年度 献血者数	事業計画比 (%)	前年度比 (%)	前年度差 (人)
全 血 獻 血	400mL	36,661	36,426	37,096	99.4	98.2	▲ 670
	200mL	296	314	241	106.1	130.3	73
献血者数合計		36,957	36,740	37,337	99.4	98.4	▲ 597
1 稼働当り 献血者数		52.4	52.2	53.2			▲ 1.0

- 1) やまぐち献血ルームの献血者数は、15,105人で事業計画比112.8%、前年度比97.0%、前年度より471人減少した。1日当りの献血者数は、48.6人であった。
- 2) 移動採血車での献血者数は、36,740人で事業計画比99.4%、前年度比98.4%、前年度より597人減少した。1稼働当りの献血者数は、52.2人であった。
- 3) 献血者数51,845人のうち、移動採血車での受入れが36,740人で71%、やまぐち献血ルームでの受入れが15,105人で29%を占めている。

③ 若年層献血者状況

(ア) 10代～30代献血者数

(単位：人)

年代別	計画数	令和3年度 献血者数	令和2年度 献血者数	前年度差	前年度比	計画比
16歳～19歳	2,405	1,989	1,660	329	119.8%	82.7%
20歳～29歳	5,956	5,985	5,744	241	104.2%	100.5%
30歳～39歳	7,830	7,349	8,123	▲774	90.5%	93.9%
計	16,191	15,323	15,527	▲204	98.7%	94.6%

(イ) 10代～30代献血者年代別構成比

(単位：%)

	令和3年度	令和2年度	前年度差
山口県（a）	29.6	29.3	0.3
全国平均（b）	33.9	34.5	▲0.6
a - b	▲4.3	▲5.2	-

- 1) 10代から30代の若年層の献血者は、15,323人で計画比94.6%、前年度比98.7%、前年度より204人減少した。
- 2) 前年度に献血実施が中止となった高等学校や大学において、徐々に再開実施してきており、10代が前年度比119.8%、20代が前年度比104.2%であった。
- 3) 2年連続で増加していた30代は、前年度比90.5%に減少した。
- 4) 年代別構成比は、10代から30代が全体の29.6%で、全国平均33.9%に比べ4.3ポイント低い現状にあり、更なる若年層献血者の確保が必要である。

(2) 輸血用血液製剤の供給状況

(単位：本)

	令和3年度 供給本数	令和2年度 供給本数	前年度比 (%)	前年度差 (本数)
全血製剤	0	1	0.0	▲1
赤血球製剤	40,844	40,030	102.0	814
血漿製剤	10,401	9,356	111.2	1,045
血小板製剤	7,838	7,701	101.8	137
計	59,083	57,088	103.5	1,995

- 1) 令和3年度の供給本数は、3年ぶりに前年度より増加した。（前年度比103.5%）
- 2) 赤血球製剤は前年度比102.0%、血漿製剤は前年度比111.2%。血小板製剤も前年度比101.8%とすべての血液製剤で増加した。

(3) 収支状況（速報値）

① 事業収益

事業収益は、1,577,265千円（予算比101.7% 前年度比102.8%）

山口県においては、すべての血液製剤が前年度より供給増となったため、輸血用血液製剤供給収益が対前年度比102.9%となった。

（単位：千円）

		令和3年度 決算額	令和3年度 予算額	予算比 (%)	令和2年度 決算額	前年度比 (%)
中四国ブロック	輸血用血液製剤供給収益	13,166,103	13,159,174	100.1	13,193,711	99.8
	その他事業収益	7,127	7,428	95.9	7,300	97.6
	事業外収益	251,149	110,482	227.3	264,428	95.0
	特別利益	307	0	—	0	—
	計	13,424,686	13,277,084	101.1	13,465,439	99.7
山口センター	輸血用血液製剤供給収益	1,576,388	1,550,225	101.7	1,531,656	102.9
	その他事業収益	214	222	96.4	176	121.6
	事業外収益	663	0	—	2,297	28.9
	計	1,577,265	1,550,447	101.7	1,534,129	102.8

② 事業費用

事業費用は、1,069,600千円（予算比98.7% 前年度比99.5%）

事業費用は、予算を1.3ポイント抑えることができた。材料費は、一部採血バッグの値上げと事業計画数以上の採血により、予算比106.1%となった。

（単位：千円）

		令和3年度 決算額	令和3年度 予算額	予算比 (%)	令和2年度 決算額	前年度比 (%)
中四国ブロック	人件費	5,415,555	5,856,035	92.5	5,416,308	100.0
	材料費	3,449,509	3,541,000	97.4	3,477,565	99.2
	経費	3,047,179	3,104,965	98.1	3,114,235	97.8
	棚卸調整額	62,049	0	—	112,129	—
	事業外費用	11,223	7,506	149.5	3,968	282.8
	関連事業費用	6,406	8,685	73.8	6,257	102.4
	特別損失	43,306	24,670	175.5	20,093	215.5
	計	12,035,227	12,542,861	96.0	12,150,555	99.1
山口センター	人件費	591,567	615,000	96.2	602,631	98.2
	材料費	246,903	232,628	106.1	247,348	99.8
	経費	231,130	235,708	98.1	224,727	102.8
	事業外費用	0	0	—	0	—
	計	1,069,600	1,083,336	98.7	1,074,706	99.5

(4) 献血協力者を確保するための主な取り組み

① 献血運動推進強調月間等におけるキャンペーン等の開催

新型コロナウイルス感染拡大防止のため規模を縮小し開催した。

(ア) 13市における「愛の血液助け合い運動」キャンペーンの開催

県内13市で地域密着したキャンペーン：献血者数1,541人

(イ) 地区献血推進協議会（8地区）における「はたちの献血」キャンペーンの開催

県内7会場で若年層への啓発キャンペーン：献血者数1,220人

(ウ) 山口県学生献血推進協議会主催によるキャンペーンの開催

「全国学生クリスマス献血キャンペーン」（12/12）

② 若年層献血者確保対策

(ア) 「高校献血（卒業献血）」及び「大学（専門学校含む）献血」の実施

・高校献血：444人（前年度比92.7% 35人減）

実施校：12校（公立7校 私立5校 延べ13回）

・大学献血：1,180人（前年度比621.0% 990人増）

実施校：9校（大学5校 専門学校等4校 延べ22回）

(イ) 「献血セミナー」「献血出前講座」の実施

・献血セミナー（高校・大学・専門学校対象）参加者数：1,575人

・献血出前講座（小学校・中学校対象）参加者数：0人

(ウ) 「けんけつキッズスクール～小学生親子体験教室」（開催自粛）

(エ) 献血読本「SEISHUN！献血」（13,800部）の作成

・県内高校、高専、支援学校高等部1年生に全員配布

(オ) 「レノファ山口FCホームゲーム献血」の実施（再掲）：献血者数81人（2回）

(カ) 「第5回山口県部活動対抗献血選手権」の開催

・高校部門127チーム：献血者数320人

・大学部門156チーム：献血者数407人

(キ) 「LINE@」「フェイスブック」「インスタグラム」の運用による献血情報の発信

③ WEB（ラブラット）会員登録の拡充（旧複数回献血者クラブ会員）

・WEB会員数：23,939人（R4.3月末）

・令和3年度新規登録者数：3,694人（目標数3,780人、達成率96.7%）

(5) 新型コロナウイルス感染拡大による献血への影響について

① 感染防止策

(ア) 職員

- ・出勤前、出勤時の体温測定。
- ・出勤時、献血会場入退室時の手指消毒。
- ・マスクの着用（必要に応じてフェイスシールドの併用）

(イ) 献血会場での対策

- ・来場者へのマスク着用、手指消毒、体温測定のお願い。
- ・使用する資機材の消毒液を用いた清掃。
- ・移動採血車内等の換気。
- ・混雑回避のため事前予約を推進。

② 移動採血車の受入れ辞退の会場

区分1	区分2	会場数	計画献血者数
学域	専門・専修学校	1会場	30人
	大学	5会場	245人
	計	6会場	275人
職域（会社・工場・病院）		20会場	700人
合 計		26会場	965人

企業等の中止となった献血については、県・市町の庁舎での追加実施の依頼および街頭献血の実施により確保に努めた。

③ 新たに移動採血車の受入れをしていただいた会場

区分	会場数	献血者数
団体	6団体	503人
職域	8会場	252人
合計	14会場	755人

「献血バスの行き先を探しています！」のキャッチフレーズで、当センターホームページへの掲載や企業等への訪問、併せてテレビやラジオで移動採血車の受入れ先を呼び掛けたところ、企業等から受入れの申し入れがいただけた。

11 評議員会及び監査

(1) 評議員会

評議員会については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、次のとおり文書による審議とし、いずれの議案も原案どおり承認されました。

① 第1回評議員会 [令和3年6月28日(月) 書面評決]

- 議案第一号 令和2年度日本赤十字社山口県支部事業報告
及び一般会計歳入歳出決算について
- 議案第二号 令和2年度医療施設事業報告
及び医療施設特別会計歳入歳出決算について
- 議案第三号 令和2年度血液センター事業報告について
- 議案第四号 日本赤十字社山口県支部 監査委員の選出について

② 第2回評議員会 [令和4年2月10日(木) 書面評決]

- 議案第一号 令和4年度日本赤十字社山口県支部事業計画
及び一般会計歳入歳出予算について
- 議案第二号 令和4年度医療施設事業計画
及び医療施設特別会計歳入歳出予算について
- 議案第三号 令和4年度血液センター事業計画について
- 議案第四号 令和3年度歳入歳出補正予算について
- 議案第五号 副支部長の選出について
- 議案第六号 代議員の選出について
- 議案第七号 監査委員の選出について

(2) 監査

① 監査委員監査

監査委員による令和元年度の支部一般会計及び医療施設特別会計の歳入歳出決算監査については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、令和2年6月22日から7月3日の期間に、書面により監査を実施いただきました。

監査の結果、県民からの赤十字に対する期待に応えていること、歳入歳出決算報告書のすべての重要な点において、適正に表示しているものと認められました。

② 外部監査（監査法人による監査）

令和3年度は、管内施設での実地監査はなく、期中の会計書類を提出し、書面による監査が行われました。

監査の結果、会計処理に関する重大な問題の指摘はありませんでした。

資 料 編

日本赤十字社山口県支部役員

令和4年6月1日現在

役職名	氏名	備考
支部長	村岡嗣政	山口県知事
副支部長	平屋隆之	山口県副知事
副支部長	井原健太郎	山口県市長会会長
支部参与	内海隆明	山口県総務部長
支部参与	弘田隆彦	山口県健康福祉部長
支部参与	木村香織	山口県副教育長
監査委員	池内英之	
	堀川順生	
本社理事	藤家幸子	本社代議員
本社代議員	石田和雄	
	嬉靜恵	
	徳田文範	

日本赤十字社山口県支部評議員

氏名	選出区分
川久保 賢隆	支部長
中繁尊範	支部長
内田芳明	支部長
田中マキ子	支部長
藤家幸子	支部長
太田英弘	下関市地区
松原守	下関市地区
中野リエ子	宇部市地区
徳田文範	宇部市地区
岩城精二	山口市地区
井上美代子	山口市地区
大島昌子	萩・阿武地区
石田和雄	防府市地区
山村美津江	防府市地区
白木正博	下松市地区

氏名	選出区分
藤谷允子	岩国市地区
堀江泰	岩国市地区
梅本貞則	光市地区
竹林敏子	長門市地区
嬉靜恵	柳井市地区
山田悦子	美祢市地区
久野三砂子	周南市地区
佐久田美智枝	周南市地区
岡本志俊	山陽小野田市地区
藤本淨孝	東部地区周防大島町分区
松村武	東部地区和木町分区
中田佳代子	東部地区上関町分区
中原和枝	東部地区田布施町分区
山田博子	東部地区平生町分区
花田憲彦	萩・阿武地区阿武町分区

地区・分区分担当窓口一覧

令和4年3月現在

地区・分区	担当部課	〒	住所	電話番号	FAX番号
下関市	総務部 防災危機管理課	750-8521	下関市南部町 1-1	083-231-9333	083-231-9966
菊川	地域政策課 総務防災係	750-0317	下関市菊川町大字下岡枝1480-1 下関市菊川総合支所	083-287-1112	083-287-2739
豊田	地域政策課 総務防災係	750-0421	下関市豊田町大字殿敷 1918-1 下関市豊田総合支所	083-766-1051	083-766-2683
豊浦	地域政策課 総務防災係	759-6301	下関市豊浦町大字川棚 6895-1 下関市豊浦総合支所	083-772-0612	083-774-3305
豊北	地域政策課 総務防災係	759-5592	下関市豊北町大字滝部 3140-1 下関市豊北総合支所	083-782-0063	083-782-1717
宇部市	健康福祉部 地域福祉課 地域福祉係	755-8601	宇部市常盤町 1-7-1	0836-34-8325	0836-22-6028
山口市	健康福祉部 地域福祉課 地域福祉担当	753-8650	山口市龜山町 2-1	083-934-2790	083-934-5087
徳穂	総合サービス課 健康福祉担当	747-0292	山口市徳地堀 1744 山口市徳地総合支所	0835-52-1121	0835-52-0760
秋穂	総合サービス課 健康福祉担当	754-1101	山口市秋穂東 6570 山口市秋穂総合支所	083-984-8023	083-984-8041
小郡	総合サービス課 健康福祉担当	754-8511	山口市小郡下郷 609-1 山口市小郡総合支所	083-973-8131	083-974-4387
阿知須	総合サービス課 健康福祉担当	754-1292	山口市阿知須 2743 山口市阿知須総合支所	0836-65-4114	0836-65-5188
阿東	総合サービス課 健康福祉担当	759-1512	山口市阿東徳佐中 3417-2 山口市阿東総合支所	083-956-0794	083-956-0680
萩市	福祉部 福祉政策課 地域福祉係	758-8555	萩市大字江向 510	0838-25-3550	0838-25-3232
川上	市民窓口部門	758-0141	萩市川上 4462-1 萩市川上総合事務所	0838-54-2121	0838-54-2430
田万川	市民窓口部門	759-3112	萩市大字下田万 1036 萩市田万川総合事務所	08387-2-0300	08387-2-0303
むつみ	市民窓口部門	758-0304	萩市大字吉部上 3191-1 萩市むつみ総合事務所	08388-6-0211	08388-6-0760
須佐	市民窓口部門	759-3411	萩市大字須佐 4570-5 萩市須佐総合事務所	08387-6-2016	08387-6-3406
旭	市民窓口部門	754-0411	萩市大字明木 3174 萩市旭総合事務所	0838-55-0211	0838-55-0217
福栄	市民窓口部門	758-0212	萩市大字福井下 3999-6 萩市福栄総合事務所	0838-52-0121	0838-52-0262
防府市	健康福祉部 社会福祉課 社会係	747-8501	防府市寿町 7-1	0835-25-2349	0835-25-2549
下松市	社会福祉協議会 地域福祉係	744-0078	下松市西市 2-10-16	0833-41-2242	0833-41-2330
岩国市	健康福祉部 社会課 管理班	740-8585	岩国市今津町 1-14-51	0827-29-5070	0827-22-0181
由宇	市民福祉課 福祉班	740-1428	岩国市由宇町中央 1-1-10 岩国市由宇総合支所	0827-63-1113	0827-63-1160

玖 珂	福祉班	742-0392	岩国市玖珂町4933-2 岩国市玖珂支所	0827-82-2511	0827-82-6139
本 郷	市民福祉課 福祉班	740-0602	岩国市本郷町本郷 2082-1 岩国市本郷支所	0827-75-2582	0827-75-2366
周 東	市民福祉課 福祉班	742-0492	岩国市周東町下久原 1208-1 岩国市周東総合支所	0827-84-1112	0827-84-7711
錦	市民福祉課 福祉班	740-0724	岩国市錦町広瀬 12-8 岩国市錦総合支所	0827-72-2112	0827-72-2120
川 美	市民福祉班	740-0502	岩国市美川町四馬神 1057 岩国市美川支所	0827-76-0311	0827-76-0863
和 美	市民福祉課 福祉班	740-1231	岩国市美和町生見 12126 岩国市美和総合支所	0827-96-1113	0827-96-1712
光 市	福祉保健部 福祉総務課 福祉総務係	743-0011	光市光井 2-2-1 あいぱーく光	0833-74-3000	0833-74-3070
長 門	市 健 康 福 祉 部 地 域 福 祉 課 地 域 福 祉 班	759-4192	長門市東深川 1339-2	0837-23-1245	0837-22-3680
日 置	地域窓口班	759-4401	長門市日置上5914-3 長門市日置支所	0837-37-2111	0837-37-2567
三 隅	地域窓口班	759-3802	長門市三隅中1473 長門市三隅支所	0837-43-0221	0837-42-0555
油 谷	地域窓口班	759-4503	長門市油谷新別名 10803 油谷保健福祉センター	0837-33-3021	0837-33-3022
柳 井	市 健 康 福 祉 部 地 域 福 祉 課 地 域 福 祉 係	742-8714	柳井市南町 1-10-2	0820-22-2111	0820-23-7566
美 祢	市 民 福 祉 部 地 域 福 祉 課 地 域 福 祉 係	759-2292	美祢市大檜町東分 326-1	0837-52-5228	0837-52-1490
周 南	市 こども・福祉部 地域福祉課	745-8655	周南市岐山通 1-1	0834-22-8465	0834-22-8396
新 南	市 民 福 祉 課 ※2021年頃まで仮庁舎	746-0034	周南市古市1-4-1 イオンタウン周南内 周南市新南陽総合支所	0834-61-4114	0834-61-4242
熊 毛	市民福祉課	745-0663	周南市熊毛中央町 1-1 周南市熊毛総合支所	0833-92-0012	0833-92-0189
鹿 野	市民福祉課	745-0302	周南市大字鹿野上 3277 周南市鹿野総合支所	0834-68-2332	0834-68-2104
山 陽	福祉部 社会福祉課 地域福祉係	756-8601	山陽小野田市日の出 1-1-1	0836-82-1174	0836-81-5695
小 野 田 市	柳井健康福祉センター 保健福祉・総務室	742-0031	柳井市南町 3-9-3 山口県柳井総合庁舎	0820-22-3777	0820-22-3895
東 部	周防大島町 健康福祉部 福祉課	742-2806	周防大島町大字西安下庄 3920-21	0820-77-5505	0820-77-5111
周 防 大 島 町	社会福祉協議会	740-0061	和木町和木 2-15-22	0827-52-8644	0827-53-2822
和 木 町	保健福祉課 社会福祉係	742-1402	上関町大字長島 448	0820-62-0184	0820-62-1541
上 関 町	市民福祉課 福祉係	742-1592	田布施町大字下田布施 3440-1	0820-52-5810	0820-52-5967
田 布 施 町	平生町 市民福祉課 地域福祉班	742-1195	平生町大字平生町 210-1	0820-56-7113	0820-56-5603
平 生 町	阿武町 社会福祉協議会	759-3622	阿武町大字奈古 3081-5	08388-2-2615	08388-2-3615

救急法等講習実施状況

令和3年4月1日～令和4年3月31日

開催地 区分	救急法			水上安全法			雪上安全法			健康新生活支援講習			幼児安全法			回数合計	受講人数	
	基礎	救急員養成	短期	養成Ⅰ	養成Ⅱ	短期	養成Ⅰ	養成Ⅱ	支援員養成	短期	支援員養成	短期	家庭あんま術					
下関市	1	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	480
宇部市	1	0	44	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	47	1,507	
山口市	5	0	41	0	0	1	0	0	0	0	0	0	5	0	0	52	1,441	
萩本市	1	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	162	
防府市	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	7	201
下松市	1	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	120
岩国市	1	0	36	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	37	1,168
光市	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	13	349	
長門市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
柳井市	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	210
美祢市	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	48	
周南市	0	0	27	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	28	1,103	
山陽小野田市	1	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	19	606	
周防大島町	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	257	
和木町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
上関町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
田布施町	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	106	
平生町	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	115	
阿武町	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	43	
回数合計	11	0	230	0	0	1	0	0	1	0	1	9	1	253	—	—	7,916	
受講人数	172	0	7,458	0	0	40	0	0	16	0	210	20	—	—	—	—	—	

赤十字奉仕団一覧表

◎地域奉仕団

令和4年3月末現在

番号	奉仕団名	団員数	委員長名	結成年月日
1	下関市赤十字奉仕団	485	草野和子	昭和50年6月11日
2	下関市菊川町赤十字奉仕団	81	林幸子	昭和57年5月1日
3	下関市豊北赤十字奉仕団	540	山戸ミエ子	平成2年3月30日
4	宇部市赤十字奉仕団	289	中野リエ子	平成21年5月15日
5	山口市赤十字奉仕団	185	松永君子	昭和32年9月20日
6	山口市徳地赤十字奉仕団	130	蕨昭子	昭和62年7月10日
7	山口市小郡赤十字奉仕団	90	井上美代子	昭和62年4月1日
8	山口市阿東赤十字奉仕団	270	松浦富子	平成6年5月1日
9	萩市赤十字奉仕団	20	山下清子	昭和43年8月23日
10	萩市川上赤十字奉仕団	19	横山恵子	平成9年9月1日
11	萩市江崎赤十字奉仕団	92	嶋田恵子	平成9年10月20日
12	萩市小川赤十字奉仕団	8	鍛治谷由乃	平成9年10月20日
13	萩市むつみ赤十字奉仕団	64	藤井美枝	平成8年4月1日
14	萩市須佐赤十字奉仕団	109	豊田菊枝	平成7年4月4日
15	萩市旭赤十字奉仕団	171	藤家幸子	昭和55年9月1日
16	萩市福栄赤十字奉仕団	14	藤原博行	令和2年10月1日
17	防府市赤十字奉仕団	352	山村美津江	昭和36年4月13日
18	下松市赤十字奉仕団	428	古田尊子	昭和32年4月1日
19	岩国市赤十字奉仕団	410	藤谷允子	昭和56年2月1日
20	岩国市由宇町赤十字奉仕団	15	石原明美	昭和53年8月3日
21	岩国市玖珂町赤十字奉仕団	120	永岡公美子	平成7年4月1日
22	岩国市本郷町赤十字奉仕団	60	藤本千壽恵	平成8年4月1日
23	岩国市周東町赤十字奉仕団	253	新谷絹代	平成4年9月8日
24	岩国市美川町赤十字奉仕団	75	上村康子	平成7年9月1日
25	岩国市美和町赤十字奉仕団	74	上尾英子	平成9年1月31日
26	長門市赤十字奉仕団	171	長井貞美	昭和57年4月1日

番号	奉仕団名	団員数	委員長名	結成年月日
27	長門市三隅赤十字奉仕団	11	竹林 敏子	平成9年2月17日
28	長門市日置赤十字奉仕団	84	前原 喜久子	平成7年11月20日
29	長門市油谷赤十字奉仕団	8	光村 久江	昭和56年4月1日
30	柳井市赤十字奉仕団	403	嬉 静恵	昭和29年10月2日
31	美祢市赤十字奉仕団	153	木島 和世	昭和48年9月1日
32	周南市徳山赤十字奉仕団	120	石田 瞳子	昭和39年10月10日
33	周南市熊毛赤十字奉仕団	130	佐久田 美智枝	平成9年5月1日
34	周南市鹿野赤十字奉仕団	90	有國 美恵子	平成3年4月1日
35	山陽小野田市赤十字奉仕団	560	岡部 つや子	昭和35年4月1日
36	周防大島町赤十字奉仕団	67	中元 みどり	平成26年4月1日
37	和木町赤十字奉仕団	158	藤本 亮恵	平成7年9月1日
38	上関町赤十字奉仕団	450	中田 佳代子	昭和63年9月1日
39	田布施町赤十字奉仕団	605	中原 和枝	昭和63年9月1日
40	平生町赤十字奉仕団	1,201	山田 博子	令和3年9月1日
41	阿武町赤十字奉仕団	350	藤田 恒代	平成7年7月27日
	合計41団	8,915		

◎青年奉仕団

番号	奉仕団名	団員数	委員長名	結成年月日
1	宇部青年赤十字奉仕団	11	徳田文範	昭和39年4月1日
2	山口大学学生赤十字奉仕団	37	志垣理久	昭和47年6月22日
3	山口県立大学学生赤十字奉仕団	18	平井詩乃	平成29年2月15日
合計 3 団		66		

◎特殊奉仕団

番号	奉仕団名	団員数	委員長名	結成年月日
1	山口県赤十字安全奉仕団	151	大立浩嗣	昭和60年4月5日
2	山口県赤十字アマチュア無線奉仕団	87	上利雅幸	平成2年3月25日
3	山口県青少年赤十字賛助奉仕団	46	藏本隆博	平成15年6月10日
4	岩国赤十字災害救護奉仕団	39	松井謙治	平成15年7月22日
5	山口県赤十字防災奉仕団	57	藤本浩志	平成18年4月22日
合計 5 団		380		



山口県青少年赤十字加盟校（園）一覧表

令和4年3月31日現在

1. 保育園

連番	保育園名	
1		清 華
2		ひ ろ せ
計	2園	

幼保	17園
小学校	86校
中学校	31校
高等学校	36校
総合支援学校	1校
計	171園・校

2. 幼稚園

連番	幼稚園名		連番	幼稚園名	
1	岩国市 山口市	岩 国 南	10	山口市	阿 知 須
2		宮 野	11		野 田 学 園
3		吉 敷	12		藤 村 学 園 旭
4		平 川	13		亀 山 ☆
5		鑄 錢 司	14		明 星 ☆
6		仁 保	15		萩 市
7		小 鰯	計		萩
8		大 内	15園		
9		山口県鴻城高等学校付属			

3. 小学校

連番	小学校名		連番	小学校名		連番	小学校名		
1	岩国市立	小瀬	36	光市立	上島田	71	宇部市立	黒石	
2		御庄	37		浅江	72		二俣瀬	
3		藤河	38		光井	73		厚東	
4		杭名	39		周防	74		小野	
5		河内	40		塩田	75		山陽小野田市立 本山	
6		通津	41		三輪	76		美祢市立 秋吉	
7		岩国	42		岩田	77		養治	
8		裴港	43		東荷	78		名池	
9		川下	44		久米	79		関西	
10		愛宕	45		櫛浜	80		清末	
11		灘	46		菊川	81		豊浦	
12		由西	47		岐山	82		吉見	
13		そお	48		須磨	83		小串	
14		川上	49		桜木	84		宇賀	
15		米川	50		秋月	85		吉田	
16		修成	51		鼓南	86	長門市立	浅田	
17		周北	52		富田東	計			
18		美和東	53		福川			86校	
19		美和西	54		三丘				
20	和木町立	和木	55	山口市立	大河内				
21	柳井市立	日積	56		大殿				
22		柳井	57		湯田				
23		伊陸	58		良城				
24		柳井南	59		平川				
25		柳東	60		嘉川				
26	平生町立	佐賀	61		興進				
27	下松市立	下松	62		佐山				
28		久保	63		仁保				
29		公集	64		小郡				
30		豊井	65		大海				
31		花岡	66		島地				
32		中村	67		柚野木				
33		東陽	68	防府市立	勝間				
34	光市立	室積	69		右田				
35		島田	70		新田				

4. 中学校

連番	中学校名		連番	中学校名	
1	岩国市立	灘	18	宇部市立	黒石
2	和木町立	和木	19		厚保
3	柳井市立	柳井	20	美祢市立	於福
4		大畠	21		秋芳
5	下松市立	末武	22	下関市立	安岡
6	周南市立	鹿野	23		菊川
7		鼓南	24		豊北
8		福川	25	萩市立	越ヶ浜
9	山口市立	大殿	26		須佐
10		白石	27		旭
11		湯田	28	長門市立	仙崎
12		鴻南	29		三隅
13		平川	30		菱海
14		小郡	31	阿武町立	阿武
15		川西		計	31校
16	防府市立	国府			31校
17		小野			

5. 高等学校

連番	高等学校名		連番	高等学校名	
1	高森		20	西京	
2	熊毛南		21	中村女子	
3	光		22	山口県鴻城	
4	聖光		23	萩	
5	華陵		24	萩商工	
6	下松工業		25	宇部中央	
7	徳山		26	宇部西	
8	徳山高等学校鹿野分校		27	宇部商業	
9	新南陽		28	宇部工業	
10	徳山商工		29	宇部フロンティア大学付属香川	
11	南陽工業		30	小野田	
12	防府		31	豊浦	
13	防府高校佐波分校		32	長府	
14	防府西		33	下関西	
15	防府商工		34	下関南	
16	高川学園		35	下関北	
17	山口		36	下関商業	
18	山口高校徳佐分校		計	36校	
19	山口中央			36校	
20	中村女子				

6. 総合支援学校

連番	総合支援学校名
1	山口南総合
計	1校

日本赤十字社山口県支部現勢（令和3年度）

・赤十字基本原則 人道・公平・中立・独立・奉仕・単一・世界性

(令和4年3月末現在)

・役員		・国際活動資金援助	
支部長	村岡嗣政	アジア・大洋州給水支援事業 85.3万円	
副支部長	平屋隆之		
副支部長	井原健太郎		
監査委員	池内英之		
監査委員	堀川順生		
本社理事	藤家幸子		
本社代議員	藤家幸子		
	石田和雄	2施設	
	嬉靜恵	547床	
	徳田文範		
評議員	30人		
・会員		・医療	
個人	1,719人	病院	2施設
法人	1,470法人	病床数	547床
・赤十字奉仕団		患者延数	
団数	49団	外来	177,385人
団員数	8,275人	(1日平均)	733.0人
・青少年赤十字		入院	137,305人
加盟校(園)数	17園154校	(1日平均)	376.1人
メンバー数	29,654人		
・救護・救援		・介護保健施設	
常備救護班	8班	小野田赤十字老人保健施設	
救護要員総数	163人	入所定員	40人
救急車	3台	通所定員	30人
通信指令車	1台	小野田赤十字介護医療院	
災害救援車	8台	入所定員	60人
無線基地局	3局		
無線移動局	45局	・血液	
NBC除染セット	1セット	血液センター	1施設
テント(パイプ組立式)	8張	出張所	2施設
エアーテント	3張	移動採血車	4台
救援用毛布	1,360枚	血液運搬車	18台
緊急セット	1,116個	献血者数	51,845人
安眠セット	144個	成分献血	9,929人
・養成		400ml献血	41,393人
救急法指導員	171人	200ml献血	523人
水上安全法指導員	26人	供給数 血液製剤	59,083本
幼児安全法指導員	73人		
健康生活支援講習指導員	32人	・職員(正職員)	
		支部	10人
		山口赤十字病院	659人
		小野田赤十字病院	99人
		老人保健施設	24人
		介護医療院	29人
		血液センター	58人
		計	879人
・山口県日赤紹綴有功会		・会員数	
		会員数	65人・社

令和3年度 活動資金募集進展状況表

令和3年4月1日～令和4年3月31日

地区名	一般社資			法人社資			合計		
	目標額 千円	実績額 円	達成率 %	目標額 千円	実績額 円	達成率 %	目標額 千円	実績額 円	達成率 %
下関市	33,565	27,395,960	81.6	3,229	3,400,588	105.3	36,794	30,796,548	83.7
宇部市	21,315	21,315,998	100.0	2,005	1,747,000	87.1	23,320	23,062,998	98.9
山口市	25,882	22,938,051	88.6	2,443	3,769,100	154.3	28,325	26,707,151	94.3
萩・阿武	6,037	5,044,806	83.6	549	442,500	80.6	6,586	5,487,306	83.3
防府市	14,263	13,625,730	95.5	1,636	2,018,000	123.3	15,899	15,643,730	98.4
下松市	7,280	12,108,871	166.3	742	804,000	108.4	8,022	12,912,871	161.0
岩国市	16,940	15,884,503	93.8	1,485	1,530,000	103.0	18,425	17,414,503	94.5
光市	6,195	8,310,093	134.1	502	627,000	124.9	6,697	8,937,093	133.4
長門市	4,148	5,577,000	134.5	421	10,314,555	2450.0	4,569	15,891,555	347.8
柳井市	4,077	5,324,851	130.6	378	434,000	114.8	4,455	5,758,851	129.3
美祢市	2,800	3,886,850	138.8	279	220,000	78.9	3,079	4,106,850	133.4
周南市	18,182	13,815,313	76.0	2,977	1,638,980	55.1	21,159	15,454,293	73.0
山陽小野田市	7,595	6,813,716	89.7	832	542,423	65.2	8,427	7,356,139	87.3
地区計	168,279	162,041,742	96.3	17,478	27,488,146	157.3	185,757	189,529,888	102.0
周防大島町	2,048	3,171,408	154.9	153	115,000	75.2	2,201	3,286,408	149.3
和木町	717	658,500	91.8	72	64,000	88.9	789	722,500	91.6
上関町	350	428,000	122.3	40	165,000	412.5	390	593,000	152.1
田布施町	1,803	2,506,150	139.0	130	140,000	107.7	1,933	2,646,150	136.9
平生町	1,400	1,885,800	134.7	95	130,000	136.8	1,495	2,015,800	134.8
東部	6,318	8,649,858	136.9	490	614,000	125.3	6,808	9,263,858	136.1
阿武町	403	726,000	180.1	32	33,000	103.1	435	759,000	174.5
分区計	6,721	9,375,858	139.5	522	647,000	123.9	7,243	10,022,858	138.4
支部	5,000	74,172,653	1483.5	2,000	3,459,271	173.0	7,000	77,631,924	1109.0
合計	180,000	245,590,253	136.4	20,000	31,594,417	158.0	200,000	277,184,670	138.6

日本赤十字社山口県支部組織図

